

社長、日く。

トップインタビュー

座右の銘

共に考え、共に行動し、
共に喜びを分かち合う。

株式会社タカラインコーポレーション
代表取締役社長 小原敏明氏

この座右の銘はキヤノンマーケティングジャパンの複合機、プリンタの新聞広告に11月22日に掲載されました。

「自分自身でやってきたことを皆で一緒にやっっていこう」

私が社長に就任したのは今から数十年前、突然の指名でした。それまで私は、紙を本業とする弊社の中ではどちらかといえば脇道であるフィルムや金属箔といった加工分野を主体に歩いてきました。そんな私だけに社長として会社全体をみななければならない立場に立った時、どうすれば皆がひとつになってまとまってやっっていけるのか、考えました。周りは先輩方ばかりで年下は僅か1、2名程。それは決して容易なことではありません。そんな時、この方法しかないと思頭に浮かんだのがこの座右の銘でした。

私は長年、滋賀工場に勤務していました。そこでは背広を着て働く本社などの営業部門とは違い、作業着で汗臭い、泥臭い仕事をしなければなりません。そんな環境で働く社員達が、自信と生きがいを持って仕事に取り組めるよう何かできないかと考え、ちょうど数年後に滋賀国体を控えていたソフトボールをやろうと思立ちました。メンバーは全く野球経験の無い、ルールは勿論のこと、投げ方や打ち方、ユニフォームのストックの履き方さえ解らない素人ばかりでした。最初は地域リーグに参加しようというところから始めたのですが、徐々に県へ、国体へ出ようという話になりました。そのかわり冬も倉庫でピッチング練習をするなど必死で練習しました。その結果、3年目で県体出場、なんと4年目には県で男子は3位、女子は1位と、滋賀県で総合優勝したのです。仕事においても夕方の練習に備えて時間内に終わらせる、そのためのチームワークが生まれました。また当時あまり認知度のなかった社名がソフトボールで頻りに新聞紙上に挙がる、それが皆の自信、生きがいとなりました。

社長就任当時は世の中が大きく変っていく時代であり、本業の紙業は衰退していく流れにありました。そんな中、紙業から新しい分野への進出を目指さなければ会社は成長しないと確信しました。そしてこのソフトボールでの自分自身の経験から、“未知のものに挑戦していく時、共に考え、共に行動し、良い結果が出れば共に歓ぼう、そうすればその喜びに従って良い方向へ進んでいく”と信じ、変革に挑んできました。その結果、実績が一つ一つ積み重なり、今日では銀行からの信頼、資産面も含め会社全体が非常に良い状態にあります。ただそれは私だけがやってきたことではなく、皆で共に作り上げてきた結果です。今後は、東南アジアあたりからなのかまだ地域は明確ではありませんが、皆で共に海外展開に挑んでいきたいと考えています。

株式会社
タカラインコーポレーション
代表取締役社長
小原敏明氏



休日はゴルフか山登り。六年前に富士山へ初挑戦。一度目、二度目は共に頂上目前でガイドの高山病や悪天候でやむなく断念。三度目にしてやっと立った頂上の景色はいろいろな意味で最高だったそうです。それ以来山登りがご趣味に。そのせいかととも若々しい印象の社長様でした。

株式会社タカラインコーポレーションは、大阪府中央区に本社を置き、特殊・機能紙、建築内装材、各種フィルム等の販売、製造・加工の他、電子・電気製品用部材、絶縁部材、各種包装・生活用品材料など幅広い分野において製品開発・製造を行っています。1951年、宝洋紙株式会社設立後、現在では、東京、名古屋、九州に販売拠点、滋賀工場があり、社員数は130名を超えます。

「会社をよくして共によくなろう」の企業理念のもと、事業活動と地球環境との調和を目指し、ISO14001認証、森林管理協議会（FSC）COC認証を取得、また営業車にハイブリッド車を導入、クリーン大阪（大阪府一斉清掃）に参加するなど、環境保全へも積極的に取り組まれています。

本社所在地 大阪府中央区北久宝寺町1丁目4番8号 <http://www.takarainc.co.jp/>